

AUTOBACS SUPER GT 2019 SERIES Rd.5 #87 T-DASH ランボルギーニ GT3 レースレポート

富士スピードウェイ(静岡県)

8月3日(土)/予選 13位

8月4日(土)/決勝 1位

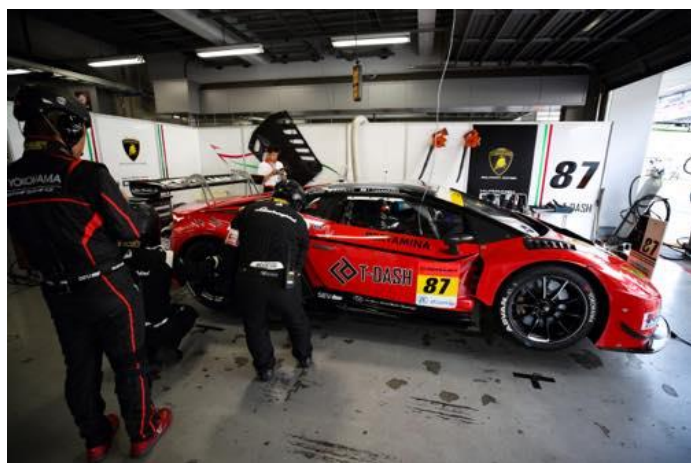
2019年SUPER GTシリーズGT300クラスに参戦する#87 T-DASH ランボルギーニ GT3。第5戦の舞台は、5月の第2戦と同じ富士スピードウェイ。前회가500kmと長いレースだったが、今回はシリーズ最長の500マイル(約800km)レースとなる。このため第2戦同様、第3ドライバーとして藤波清斗を起用することになった。

前回のタイで、7位で4ポイントを獲得したことで8kgのハンディウェイトを搭載することになったが、この重量ではほとんど影響はなさそうだ。



<公式予選>

真夏の太陽が照りつける富士。8時50分から行われた公式練習では、まずクートが車両の状態を確認しセッティングを細かく指示。そのセットアップを確認後、高橋、そして藤波がコースインして1時間25分という短い時間で挙動を確認した。続いて10分間行われたGT300の専有セッションでは、クートがニュータイヤを履いての確認を行いベストタイムは1分39秒017で29台中15位と前回同様中団につけた。



公式予選のQ1は暑さのピークを過ぎた14時50分から始まった。ピークを過ぎたとはいえ気温は31℃、路面温度は40℃に達していた。このセッションでトップ16に入ることができれば、上位グリッドをかけたQ2への進出ができる。クートがコースインしタイヤを温めていく。そして計測3周目に1分38秒202をマークして9番手につけ2戦連続でQ1を突破した。

Q2では高橋がアタックを担当した。そして計測3周目に1分38秒413で13位となりセッションは終了。長い決勝レースを見据えての硬めのタイヤ選択であり、予想に近いグリッド位置だった。

4日の決勝レースは、このレースでは4回のピットインと4回のドライバー交代が義務付けられており、3名のドライバーでいかにつなぐかが鍵となった。チームでは、4つの長めのスティントの間にひとつのショートスティントを挟む作戦。うまく機能すれば、上位進出も可能なスタート位置だ。

<決勝レース>

4日の決勝レースは気温33℃、路面温度51℃という猛烈な暑さのなか13時47分にスタートした。ステアリングを握るのはクートで、タイヤのマネジメントと燃費を考慮したラップタイムで周回。20周を過ぎたあたりから早めのピットインをする車両もあり、着々と順位を上げて36周目にはクラストップとなり39周でピットイン。ここで藤波に交代。同時に停止中の25秒間給油を済ませタイヤ交換をせずに短い時間でピットアウトした。

そして次の周で藤波がピットインし高橋に交代。前の周で給油をしているため、短かめの給油とタイヤ交換を済ませ、全体的にフルサービスよりも短い時間で作業を終えた。これで2回のピット作業とドライバー交代を済ませた。

高橋は24位でコースへ。ここから安定したペースで周回を重ね、ライバル勢が2回目のピットインを始め、1台の車両がクラッシュした65周目には8位へ。車両を回収するためにセーフティカー(SC)が導入され、それが隊列から離れた際にピットインする車両もあり、75周目には3位へ。そして84周で3回目のピットインをして藤波に交代。

藤波は給油とタイヤ交換を済ませて15位でコースへ復帰した。藤波は5月の第2戦でも安定した走りを見せており、今回も順調に周回。ライバル勢が100周前後で3回目のピット作業のためにピットインをすると、藤波は105周で5位、111周で3位、そして122周目には暫定トップへ。125周でピットインしてクートへ最後の交代。給油とタイヤ交換を済ませ、クートは10位でコースへ戻った。

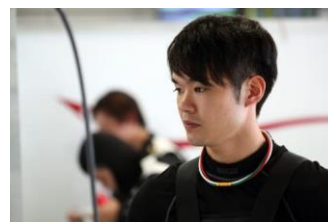


129周目から上位を争っているライバル勢が最後のピットインをする間にクートは順位を上げていき、139周目にはトップに返り咲いた。そしてそのままトップを譲ることなく2位に35秒以上のリードを保ち、唯一163周を走りきって歓喜のチェッカー。

JLOCとしては2014年第4戦SUGO以来5年ぶり、87号車として、またウラカンとしては嬉しい初優勝となった。

高橋翼

「(39周で)ピットアウトして次の周にピットインするという作戦で、ピット作業時間ですいぶん時間を稼ぐことができましたので、今回はそこが一番のポイントだったと思います。エンジニアさんが考えた作戦がうまくはまってくれました。僕は今年SUPER GTに初(フル)参戦でしたから、初めての表彰台でした。勝つことができホッとしています」



アンドレ・クート

「今日は最高の一日になりました。ロングランドライブでもクルマのバランスはすごく良かったです。1スティントは長くてドライバーにもタイヤにも厳しかったのですが、3人ともうまくマネジメントできました。僕のスティントではクールスーツが機能せず暑くてきつかったのですが、『大丈夫、すぐ終わるから』と自分に言い聞かせて運転に集中しました」



藤波清斗

「僕は富士の2戦だけ第3ドライバーとしての登録ですが、テストにも参加することができてクルマにも慣れてきました。今回は最低でも表彰台に乗ろうという目標で、(ピットアウトした次の周でピットインする)アウトインという作戦は勝負に出ようということでの採用でした。クルマはセッティングも決まっていて、みんなが頑張りのおかげで優勝できました」

